

令和2年度 公社等経営評価シート  
(対象期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

概	名称	公益財団法人宮崎県立芸術劇場		所在地	宮崎市船塚3丁目210番地		
	電話番号	0985-28-3216		ホームページ	<a href="http://www.miyazaki-ac.jp">http://www.miyazaki-ac.jp</a>		
	設立年月日	平成5年4月1日	代表者	理事長 佐藤 寿美	県所管部・課	総合政策部 みやざき文化振興課	
	総出資額	225,797 千円		県出資額	225,797 千円	県出資比率	100.0%
	設立目的	県立芸術劇場を拠点として芸術文化等多様な文化活動を総合的に促進し、文化の香り高い地域づくりと、心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的とする。					
特記事項	県立芸術劇場の指定管理者として指定を受けている。 (指定期間：平成18～22年度、23～27年度、28～令和2年度)						

		内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
改革工程	①公社等のあり方見直し	公益財団法人としての適切な運営	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等) (実績) 公益目的事業比率:91.2%	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等) (実績) 公益目的事業比率:90.5%	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等)	
			②公社等の経営見直し	経営・事業運営改善	指定管理業務評価等を踏まえた事業内容の見直し、文化事業基金の有効活用の検討	(計画) 文化事業基金を活用した自主事業等の実施 (実績) 指定管理業務評価や利用者満足度調査等の結果を踏まえて策定した事業計画について、外部委員による「文化事業協議会」において審議していただいた上で、32件の事業を行った。
	財務改善	自主財源の拡充(企業協賛金、友の会収入等)、貸館稼働率の向上		(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上 (実績) 宮崎国際音楽祭協賛金34,470千円 貸館稼働率78.3%	(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上 (実績) 宮崎国際音楽祭協賛金34,840千円 貸館稼働率72.8%	(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上
	組織等適正化	組織・企画力の強化、人材育成		(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施。 (実績) 全国公立文化施設協会主催の各研修や九州支部主催の研修のほか類似ホールとの人材交流に職員を派遣するとともに、外部講師を招聘し「これからのホール・劇場職員に必要なコミュニケーション術」と題しての研修を実施し、人材育成を図った。	(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施。 (実績) 全国公立文化施設協会主催の各研修や九州支部主催の研修のほか類似ホールとの人材交流に職員を派遣するとともに、人権同和問題について外部講師を招聘しての研修を実施し、人材育成を図った。	(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施。
	③県と公社等の関係見直し	人的支援見直し	人的関与の検討、実施	(目標) 県派遣職員が1名となり、その影響を見極めながら引き続き派遣の必要性を検討 (実績) 県派遣職員が1名となっている。	(目標) 県派遣職員が1名となり、その影響を見極めながら引き続き派遣の必要性を検討 (実績) 県派遣職員が1名となっている。	(目標) 県派遣職員の必要性の検討
		財政支出見直し	財政支援の検討、実施	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化を図る。 (実績) 文化庁や地域創造の助成事業のほか、企業からの協賛金支援など多様な財源の確保を図った。 (助成総額 41,515千円)	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化を図る。 (実績) 文化庁や地域創造の助成事業のほか、企業からの協賛金支援など多様な財源の確保を図った。 (助成総額 30,979千円)	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化を図る。
	④情報公開推進	ホームページでの情報公開の充実	ホームページでの情報公開の充実 (実績) ホームページのほかフェイスブック、メールマガジンを活用し、公演情報等を積極的に発信した。	(計画) ホームページでの情報公開の充実 (実績) ホームページのほかフェイスブック、メールマガジンを活用し、公演情報等を積極的に発信した。	(計画) ホームページでの情報公開の充実	

	(人)	令和元年度				令和2年度			
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
人的支援	役員数	9	0	2	7	9	0	2	7
	常勤	1	0	1	0	1	0	1	0
	非常勤	8	0	1	7	8	0	1	7
	職員数	29	1	1	27	25	1	1	23
財政支出等	(千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	県委託料	607,602	684,846	500,626	県借入金残高	0	0	0	
	県補助金	0	0	0	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	6,026	5,944	5,495	
その他の県からの支援等									
主な県財政支出の内容	事業名	事業内容			令和元年度決算額(千円)	令和2年度予算額(千円)	種別		
	① 県立芸術劇場管理運営事業	県立芸術劇場の維持管理			324,399	324,399	指定管理料		
	② 宮崎国際音楽祭開催・準備事業	宮崎国際音楽祭の開催業務及び次年度の開催準備業務			100,178	100,178	指定管理料		
	③ 県民文化振興事業	県民文化振興に係る県立芸術劇場主催事業等の実施業務			54,453	54,453	指定管理料		
	④ 県立芸術劇場大規模改修事業	県立芸術劇場施設設備の修繕等業務			20,268	4,256	委託料		
	⑤ 県立芸術劇場災害復旧事業	県立芸術劇場施設設備の災害復旧業務			1,328	0	委託料		

実施事業	① 県立芸術劇場管理運営事業(大規模改修事業を含む)						
	② 宮崎国際音楽祭開催・準備事業						
	③ 県民文化振興事業						
	④ 友の会事業						
⑤ ホール等貸出事業							
活動指標	指標名	算式(単位)	令和元年度			令和2年度	令和3年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
	① 劇場稼働率	稼働日数/利用可能日数×100(%)	77.0	72.8	94.5%	77.0	77.0
	② 主催公演の入場者率	入場者数/キャパシティ×100(%)	70.0	66.2	94.6%	70.0	70.0
③ 友の会会員数	人数(人)	1,500.0	1,366.0	91.1%	1,500.0	1,500.0	
指標の設定に関する留意事項							

	正味財産増減計算書 (千円)			貸借対照表 (千円)		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
経常収益	855,549	947,585	731,874	資産	571,601	591,753
経常費用	847,252	937,616	745,715	流動資産	308,664	331,143
当期経常増減額	8,297	9,969	-13,841	固定資産	262,937	260,610
経常外収益	0	5,252	16,550	負債	118,022	128,205
経常外費用	0	135	0	流動負債	117,353	124,746
当期経常外増減額	0	5,118	16,550	固定負債	669	3,460
当期一般正味財産増減額	8,297	15,086	2,709	正味財産	453,579	463,548
一般正味財産期首残高	184,031	192,328	207,415	指定正味財産	261,251	256,133
一般正味財産期末残高	192,328	207,415	210,123	(うち基本財産への充当額)	30,000	30,000
当期指定正味財産増減額	410	-5,118	-16,550	(うち特定資産への充当額)	231,251	226,133
指定正味財産期首残高	260,841	261,251	256,133	一般正味財産	192,328	207,415
指定正味財産期末残高	261,251	256,133	239,583	(うち基本財産への充当額)	0	0
正味財産期末残高	453,579	463,548	449,706	(うち特定資産への充当額)	0	0

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

	指標名	算式(単位)	令和元年度			令和2年度	令和3年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
①	管理費比率	管理費/経常費用×100(%)	51.0	57.9	86.5%	51.0	51.0
	令和元年度 実績値の算式	431,808千円/745,715千円×100					
②	入場料収入比率	入場料収入/総事業費×100(%)	36.0	28.5	79.2%	36.0	36.0
	令和元年度 実績値の算式	36,339千円/127,700千円×100					
③							
指標の設定に関する留意事項							

直近の県監査の状況		令和元年10月16日県事務局監査：指摘事項なし								
総合評価	公社等 自己評価	<p>第三期指定管理4年目の令和元年度は、第三期の基本方針や運営指針等を検証することで、改めて県民サービス向上徹底の必要性を確認した。</p> <p>特に、貸館業務において、コーディネーター体制によるきめ細かなサービス提供を実施したこと等による利用者の増加が見込まれていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館のキャンセルが相次いだことで、稼働率目標等をわずかに達成することができなかった。</p> <p>財務指標については、目標を達成することができなかったものの、管理費比率を改善することができた。</p> <p>引き続き、公益性の確保と県民が親しみをもてる劇場づくりを目指すとともに、各関係機関等と適切に連携し、多様で魅力的な舞台芸術等を企画・実施していきたい。</p> <p>なお、組織運営については、プロパー職員を中心に、中長期的な法人運営を見据えた人材育成に取り組むなど、組織体制の充実強化を図っている。</p>				県所管部課 二次評価	<p>活動内容について、各指標をわずかに達成することができなかった。主要要因として、新型コロナウイルス感染症の影響により施設稼働率が大幅に低下し、特に3月は、例年の10分の1程度であったことが挙げられる。友の会会員数についても影響を受けており、令和2年度の音楽祭をはじめとする各文化事業の先行きが見えないことが減少の要因となっている。</p> <p>今後、適切に感染症予防策を講じ、安心・安全に利用できる環境を整え、円滑な再開に期する必要がある。</p> <p>財務内容について、目標には届かなかったものの、管理費比率に改善が見られるとともに、前述のとおり、コロナの影響を受けながらも一般正味財産増減額が黒字となった点は評価できる。</p> <p>入場料収入比率について、劇場は、県民文化振興の拠点として、様々なジャンルの質の高い芸術文化を広く県民に提供する役割をもっており、比較的低廉な入場料としていることが要因の一つとなっている。助成事業の積極的な活用や、集客力の高い公演の実施等による収入確保に努めているところであるが、今後も、広報宣伝や販売促進等により一層積極的に取り組むとともに、公益性を担保しつつも収支バランスを適正に保つ努力が求められる。</p> <p>組織運営については、他館との交流研修をはじめとする職員のサービス・企画力向上や、中長期的な運営を見据えた人材育成の取組など、充実強化が図られている。</p>			
	評価 <small>(A. 良好、B. ほぼ良好、C. やや課題あり、D. 課題多い)</small>	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営	評価 <small>(A. 良好、B. ほぼ良好、C. やや課題あり、D. 課題多い)</small>	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営
	目標 達成度	A	B	B	A	A	A	B	B	A
					公社等改革 推進委員会 三次評価	<p>活動内容については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、各指標とも目標値を下回っているもののおおむね達成しており評価できる。</p> <p>財務内容については、新型コロナウイルスの影響等により、入場料収入比率が落ち込んでいるが、当期一般正味財産増減額は黒字を維持しており評価できる。</p> <p>引き続き、県立芸術劇場の指定管理者としての管理業務を適切に実施するとともに、採算性の確保を図り、また、新型コロナウイルスの感染予防等に対応しながら県民のニーズ等を的確に捉えて、さらに充実した芸術文化を提供することが求められる。</p>				